カトリック　三軒茶屋教会

おとずれ

2015年10月4日発行　第60巻第7号

アシジの聖フランシスコ号

ミサの式次第変更（2）

主任司祭 ミカエル 湯澤民夫 神父

ミサの式次第が変わることが。少なからず動揺を引き起こしつつあるようです。瀬田では、「変化の意味は何か」「何のために変えるのか」と質問されました。しかし、変えるのではなく、むしろ規範版に沿って全世界的に同じような典礼をしようということが、目的のようです。第二バチカン公会議以降、各国の特徴に従って適用する試みがなされてきましたが、むしろ全世界どこに行っても大体同じような典礼を、ということのようです。

昔、太平洋戦争時代、大陸に出征した兵士から、「とにかく、教会で祈りたくて、教会を見つけると、聖体訪問をした。時には、ミサやベネディクションに出くわす。すると、『キリエ』とか、『タントゥム・エルゴ』とか、ミサの言葉が分かるんだ。世界中、どこに行ってもカトリックは同じなんだ。同じミサに出られるんだ。同じ信仰なんだと思った」ということを、聞かされたことがあります。「カトリックは、どこに行っても同じ言葉（ラテン語）だから、日本にいるのと同じようにミサに参加できる」ということは、よく聞きました。それが国語化され、各国の文化に適用されるとそれが失われてしまったことは確かです。豊かにはなったのですが。

今回の変更では、ミサの中での「沈黙（聖なる沈黙）」が強調されています。第一に、一般的に沈黙が保たれるように配慮することが求められています。ミサの始まる前とミサの後の沈黙が、教会堂（聖堂）内はもちろんのこと、隣接する香部屋や聖堂前のホールでも守られるよう配慮することが求められているのです。沈黙は、祭儀（ミサなど典礼）の一部である、と言われています。我ながら、不用意な会話をしていることがあり、反省させられます。

沈黙には、色々の意味があります。回心の祈りの前の、自らを振り返るための沈黙は、回心の祈りが、一人一人の回心の言葉になるように用意します。聖書朗読の前の沈黙は、神の言葉を聞く準備になり、朗読後の沈黙は、神の言葉を味わる時間です。説教の後の沈黙は、み言葉の説明を味合うためです。朗読の前後や説教の後の沈黙の時間に、奉仕者や司祭が位置を変えるために移動することがありますが、参加している信徒の皆さんの黙想のための沈黙を妨げるものとなってはならないでしょう。「言葉の典礼は、黙想を助けるように行われなければならない。したがって、内省を妨げるようなあらゆるかたちの性急さを一切避けなければならない。」非常に厳しい言葉で言われているのは、言葉の典礼における「み言葉」の、感謝の典礼における「御聖体」と同じくらいの大切さを強調したいからでしょう。

次回は、み言葉の朗読や共同祈願についても考えてみましょう。

アッシジの聖フランチェスコのお祝いの日によせて

協力司祭　ヨセフ小西**広志 神父**

フランチェスコは自らの死の直前、アッシジ市内の司教館に滞在していた。かつて、回心の時に司教と父親の前で裸になったのは、この司教館前の小さな広場でのことだった。そこに滞在しながら、フランチェスコは自分の『被造物の賛歌』（『太陽の歌』）を兄弟たちに日がな一日歌わせていた。自分も歌っていた。伴侶の一人のエリアがその有り様をいぶかしく思い、「人々は、死の苦しみにいるのになぜ歌を歌うのかと疑問に思うだろう」と問うている。

「どうして、フランチェスコは死のうとしているのにあんなに喜びを現わせるのだろうか。死について考えるのはよいことではないだろうに」

（『アッシジの編纂文書』99）。

その問いかけに、フランチェスコは、二年前にエリアがフォリーニョで見た夢、すなわち二年でフランチェスコが死ぬという夢について話し、その時以来、「死の時を考えるのに熱心になった」と答えている。そして、「聖霊の恵みのおかげで、私は主に近づいている」と語った。

フランチェスコは、あと二年しか生きることができないというエリアの夢を聴いた時から、死について深く考え始めた。そして、ようやく「主に近づいている」という想いにたどり着いたのだ。

『アッシジの編纂文書』によれば、アレッツォから来たブオンジョヴァンニという医師が、「父よ、医学によれば、あなたの病気は治りません。あなたは九月の終わりか十月の四日に帰天するでしょう」と言ったとき、フランチェスコは腕を広げ、尊敬と真心を持って手を上げ、「ようこそ、姉妹なる死よ！」と叫んだとある。

フランチェスコの晩年の二年間はどういうものだったろう。ラ・ヴェルナで

傷を受けて、それ以後のフランチェスコは会の変貌を見ながら、自分の病と闘った。そして、多くの時間を祈りに割いた。死と向き合う二年間。それは、主イエス・キリストと向き合う二年間でもあっただろう。

この小さなエピソードは、わたしたちに慰めを与えてくれる。フランチェスコですら二年間にも**わたって自らの死を黙想し、祈ったのだから、ま**してや、わたしたちもまた……。

「シスター渡辺　和子の講演会で感じたこと」

ヨハネ　加藤春一

９月９日　小雨降る中　聖イグナチオ教会でシスター渡辺和子の「現代の忘れもの」というタイトルでの講演会に参加した。６時半に聖堂に到着した時は既に満席に近く[約１，１００人収容]、シスターは介添え人と共に満面の笑みをたたえて現れた。開始時間６時４５分ピッタリに開始し、椅子が用意されているにも拘わらず予定時間の８時１５分迄立ったままの講演であった。殆どの聴衆はこの８８歳のご年齢を感じさせない、強靭な精神力に圧倒されと思う。

シスターの履歴は広く知られているので概略だけ述べたい。旭川で生まれ９歳の時に二二六事件で実父（教育総監　渡辺　錠太郎）が４３発の弾丸を浴びて暗殺される現場を１メートルの至近距離で目撃。戦争中の１７歳でカトリックに受洗。その後上智大学の大学院で学びながら当時の国際部で事務員として神父様の下で働かれた。(奇しくも筆者も大学２年から４年までこの国際部の夜の事務員のアルバイトをしながら上智大学を卒業した）その後、３０歳で修道女になり渡米しボストン大学で博士号をとり帰国して３６歳でノートルダム清心女子大学の学長に就任して現在に至る。

特に最近は「置かれた場所で咲きなさい」が１３０万部という空前のベストセラーになり全国にその名前が知られるようになった。シスターの講話の概略を引用された方々の話と一緒に纏めると以下３点であった。

１.哲学者　ガブリエル・マルセル博士：氏の自由論を以下の様に引用「真の自由とは人間を取り巻く諸条件から逃れる自由では無く、諸条件に対して向き合い、自分の有り方、生き方を決めることだ」この自由に対する基本的信念がシスターの「置かれた場所で咲きなさい」という実存的な生き方に繋がると筆者は解釈した。

２.宗教家、思想家　マルテイン・ブーバー博士：筆者も尊敬し特に出会いと対話の哲学的考察で影響を受けた哲学者だ。シスターはブーバー博士の「人間は唯一無二の存在である。

現在生きる我々個々人は過去にも将来にも存在しない。謂わば唯一無二の個性を持った存在故、命を大切にしなさい」という引用だった。

5

ブーバー博士は有名な著書「我と汝」で人間は生涯にわたり、神、人間、自然、芸術との出会いと其々の双方向の対話を通じて平和を実現する使命を有していると述べている。偶々、筆者の職業がエグゼクテイブ・サーチ・コンサルタン

ト（別名ヘッドハンター）で、まさに人間の「出会い創造」に関わっている職業なので、ブーバー哲学は常に心の支えとなっている。又ブーバー博士のユダヤ人、パレステイナ人との共存による平和実現活動は、ガンジー、マザーテレサ、マーテイン・ルーサーキングと並んで２０世紀の偉大な平和推進者と広く称されている。筆者も同感である。
３．心理学者　ビクターフランクル博士：「あらゆる艱難辛苦の中で最後に生き残るのは健康な人や、金持ち、権力者でもない、生きる目的と強固な意志を持つ人が最後に生き残る」として博士のアウシュビッツの生き残りの話を、「現代の忘れもの」として引用されていた。

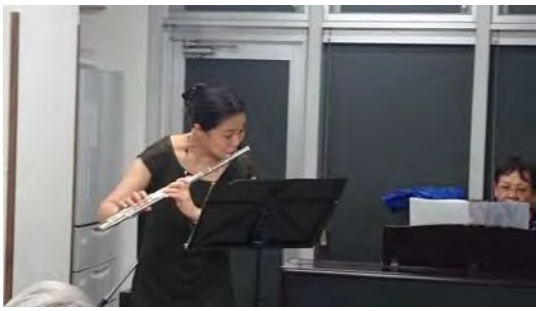
以上要約すれば「人間は神から与えられた命を大切に、置かれた場所で、目的と意義を見出して精一杯咲きなさい（生きなさい）」というキリスト教実存主義哲学と思う。
シスターの講演での引用は実にさり気なく、淡々とした語り口調で、非常に解り易いのが強く印象に残った。今までの人生で様々な講演を聞いてきたが、最も感動的な講演の一つであったと言えよう。

この日の昼には、筆者が尊敬する経済人の元経済同友会代表幹事、富士ゼロックス会長のアンソニー・小林陽太郎氏の告別式が（故人は父親が筆者の勤務していた商社のロンドン駐在員時代に生まれた）、ここ聖イグナチオ教会で執り行われたことも有り、生涯忘れられない日となった。　―神に感謝―

2015 年 8 月 15 日・ビヤーパーティ&ミニコンサート

ビヤーパーティー会場

男性 4 人のコーラス



中島治子さんのフルート演奏

シャンソン歌手・山崎　肇さんの演奏

２０１５　日曜学校のサマーキャンプ

８月２２日（土）～２３日（日）まで三軒茶屋教会に１泊するサマーキャンプを行いました。

朝、大きな荷物を抱えて教会に集合し、班分けをして聖堂に向かい、井之上神父様のギター伴奏で青い讃美歌集の歌とお祈りをささげ、内藤神父様からのお話をいただいてから遠足に出発です。
中高生リーダー達は、自分たちの合宿といいながら、前日から瀬田教会に泊まり込み、深夜まで日曜学校のプログラムを考えてくれ、朝から合流。小さい下の子連れの保護者や小・中・高校生、青年リーダー、いかにも教会らしくゴチャ混ぜに、30 名ほどでバスを乗り継ぎ、最初の目的地の六本木ヒルズに着きました。

『フランシスカン・チャペル・センター』聖堂

ちょうど夏休みイベント中でドラえもんがいっぱい！記念写真をとったら、井之上神父様と一緒に、広い公園で遊びまわり、ほんの少し歩いて『フランシスカン・チャペル・センター』におじゃましました。
湯沢神父様が話を通して下さっていたので、ゆっくり見学させて頂き、聖堂でお祈りし、集会室でお弁当を食べました。
三軒茶屋教会以外の教会に入ったことのない子ども達は全然違うムードに興味津々、良い経験をさせて頂いたと思います。
３時前に戻って、おやつタイム。そしてゲー
地元三軒茶屋の「駒の湯」で汗を流したら、夕食はイスラエル料理。トマト煮に卵を入れて仕上げる「シャクシューカ」やピタパンのサンドイッチを自分で作って。
土曜夕方ミサ司式の小西神父様も飛び入り参加下さり、夕食時には５０名ほどで賑やかに過ごしました。
毎年恒例の花火とスイカ割をすませてからも、特別な体験は続きます。
教会内で寝袋使って眠るのです。特に男の子たちは、中庭にテントをたててのテント泊。
長い夜が明け、眠い目をこすり起きだして、朝食後から朝のミサに向けて準備を始めます。
さすがは教会っ子たち、リーダーと一緒に、共同祈願を考え、キャンプ中に１番大切にしていた「お互いに名前を呼び合う」ために全員がつけていた『名札』を奉献するなど工夫をして、キャンプでの体験を織り込んでのスペシャルミサを、しっかりと捧げていました。
一層、三軒茶屋教会が身近に感じたかな？　　（日曜学校　保護者）

2015 年 9 月 13 日・敬老記念ミサ時の写真

主任司祭湯澤民夫神父様のご挨拶

敬老食事会風景

こ　よ　み

１０月

１０月　４日(日)　年間第 27 主日 聖フランシスコ（アシジ）修道者
１０月　６日(火)　聖ブルーノ司祭
１０月　７日(水殉教者)　ロザリオの聖母
１０月　９日(金)　聖ディオニジオ司祭と同志
　　聖ヨハネ・レオナルディ司祭
１０月１１日(日)　年間第 28 主日
１０月１４日(水)　聖カリスト一世教皇殉者者
１０月１５日(木)　聖テレジア(イエス)おとめ教会博士
１０月１６日(金)　聖ヘドビッヒ修道女
１０月１７日(土)　聖イグナチオ(アンチオケ)司教殉教者
１０月１８日(日)　年間第 29 主日
１０月１９日(月)　聖パウロ(十字架の)司祭
１０月２２日(木)　聖ヨハネ・パウロ二世教皇
１０月２３日(金)　聖ヨハネ(カペストラノ)司祭
１０月２４日(土)　聖アントニオ・マリア・クラレ司教
１０月２５日(日)　年間第 30 主日 教会バザー9:30～
１０月２８日(水)　聖シモン 聖ユダ使徒

11 月

１I月　１日(日)　諸聖人
１１月　２日(月)　死者の日
１１月　３日(火)　聖マルチノ・デ・ポレス修道者
１１月　４日(水)　聖カロロ・ボロメオ司教
１１月　８日(日)　年間第 32 主日
１１月　9.日(月)　ラテラン教会の献堂
１１月１０日(火)　聖レオ一世教皇教会博士
１１月１１日(水)　聖マルチノ(ツール)司教
１１月１２日(木)　聖ヨサファト司教殉教者
１１月１５日(日)　年間第 33 主日
１１月１６日(月)　聖マルガリタ(スコットランド)
１１月１７日(火)　聖エリザベト(ハンガリー)修道女
１１月１８日(水)　聖ペトロ教会と聖パウロ教会の献堂
１１月２１日(土)　聖マリアの奉献
１１月２２日(日)　王であるキリスト

あとがき

◇ アシジの聖フランシスコ号をおとどけします。
◇ 今号の「おとずれ」には、湯沢神父様は「ミサの式次第変更」と題して巻頭言をいただきました。「ミサの式次第変更」は世界中どこの教会でもミサに与る式次第を統一するためです。
◇ 協力司祭小西広志神父様には、「アッシジの聖フランチェスコのお祝いの日によせて」と題し、本号に相応しい記事を掲載しております。
◇ 加藤春一「シスター渡辺　和子の講演会で感じたこと」の感想文を頂きました。
◇ 次号は「王であるキリスト号」(第 60 巻 第 9 号)は、2015 年 11 月 22 日発行となります。

『おとずれ』第 60 巻 第 8 号 2015(平成 27)年 10 月 4 日発行
発　　行　カトリック三軒茶屋教会
編集・印刷　カトリック三軒茶屋教会･広報委員会
主任司祭：ミカエル 湯 澤 民 夫
〒154-0024 世田谷区三軒茶屋 2－51－32
TEL 3421-1605　FAX 3421-9788
http://home.f05.itscom.net/sancha/index.htm
sancha-catholic0629@leaf.ocn.ne.jp